令和元年（2019）
阿づまの光
7月号・Julio

【弥仙山金峰山土・梅松館木の花桜釉】

教主さまお作　鉄絵茶盌「富士」

題字出口直日

通巻第６０４号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 猪子 恒
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

信仰継承と祭式

祭務課主事　出口拓生

今年3月、東光苑を会場に「春季祭式講習会」が開催されました。その中に、ご夫婦で参加された方があり、ご主人は全くはじめての受講で、笏の持ち方や足の運び方など、一つひとつの動作を修得しようと、講師の言葉に耳を傾け、真剣な眼差しで取り組んでおられるお姿が印象的でした。また4月の「少年祭式講習会」では、そのご夫婦のお子さんが参加され、家庭をあげて祭式に励まれる姿に感銘を受けました。

私たちの日々の生活は、大神さまの絶大なご守護を頂いており、先祖の神霊さまもお救いいただいています。ですが、せっかく大神さまを奉斎されていても、「おまつりの仕方が分かりませんから…」と、やがて信仰から離れていかれるケースも少なくありません。

後継者育成について四代教主さまは、「小さな子供のときから、神さまに手を合わせることを習慣づけていくということは大事なことですね。朝晩はちゃんとお参りさせていただく。どこかに出ていくときにも、神さまにごあいさつをしてから行く。毎日の生活のなかで、そういう癖をつけておくと、年ごろになって難しくなっても、何かあったら神さまに手を合わせます。それが親として子供に信仰を伝えていくための責任ではないでしょうか」（『つるかめ日誌』）と、日常生活の中で神さまに向き合うことの大切さをお示しいただいています。

さらに、『祭式の指導・普及はとても大事なことだと思います。各家庭で月次祭ができるようになり、それが継承してゆくということは、信仰生活の基本でしょう』（同）とお示しくださっています。

今、私たちにできることは、各家庭や主会・分所・支部などで、神饌の盛り付け方や玉串の垂手の付け方など、まつりに親しめる環境をつくり、祭式の習得を進めさせていただくことが、信仰後継者を担う大切な取り組みの一つではないかと思わせていただきます。

まつりが充実できますよう、我が身を省み、戒めつつ、皆さまとともに祭式普及に励ませていただきたく存じます。

今月の聖言

惟神道のまことの尊さは
踏みてののちに悟りこそすれ

出口王仁三郎聖師

心を育てる四つの力

～『感謝祈願詞』に学ぶ～

私たちの心には、勇・親・愛・智の４つの魂の働きが存在します。自分自身の心の働きを静かに省みて、精神の向上をはかりたいもの。大本で奏上する祝詞「感謝祈願詞」に学びながら、４つのたましいの働きについて触れてみたいと思います。

内的動機づけで働く

文明の発達のおかげで、便利な世の中になりましたが、多くの人が心のどこかに物足りなさを感じています。「人はパンのみに生くる者にあらず」という言葉の通り、「人は物質だけで満足するために生きるものではなく、精神的支えや拠り所が必要である」からではないでしょうか。食べることも、お金を稼ぐことも、豊かに暮らすのも、それらはすべて、私たちが生きていくために必要なことではありますが、目的ではありません。

20世紀は「頑張ってこれをしたら報酬がもらえる」という外的動機づけの世の中でした。ところが21世紀は、自ら喜びをもって成したいという「自主性」や、何か大切なことについて上達したいという「向上心」、他の何かのために役立ちたいという「目的意識」という、内的動機づけが、社会を変えていく大切な要素になっていると言われています。

大本三代教主補の出口日出麿尊師は、『なしたきが故になす』というふうにならなくては、最初から報酬や賞讃を目あてになすのでは、これすでに、報酬や賞讃の奴隷となっているのであって、真に天地を楽しんで神のご用を努めているのではない」（『信仰覚書』第1巻）と内的動機づけの大切さを示しています。そうすることで、ネジを一個作るにも、このネジが世の中を豊かにするんだという喜びが生まれてくるわけです。

日本人の誇りをかけた建物

どんな環境に置かれても、それを突破しようと努力することが大切で、その環境を良くするのも悪くするのも、その人の心次第と言えます。

ウズベキスタンの首都・タシケントに、ナボイという劇場があります。この劇場は、大戦後、シベリア抑留にあった日本兵457人が建設に携わりました。10代～20代の青年たちです。生きて帰れる保証のない過酷な環境でしたが、部隊の責任者だった永田行夫さん（当時25歳）が隊員らにかけた言葉が感動的でした。

「私は、日本人の誇りと意地にかけて世界一の劇場を作りたいと思っている。捕虜としてやるのだから、別にそこまで力を入れなくてもよいのでは、という意見もあるだろう。しかし私の気持ちとしてはさすが日本人たちの建設したものはできが違うといわれるものにしたいと本気で思っている」

そうして陰日向なく懸命に働き、2年の歳月をかけて劇場を完成させました。

完成から19年後の1966年、ウズベキスタンに大きな地震が発生し、多くの建物が崩壊しました。ところが、このナボイ劇場はビクともせず、市民の避難所になりました。まさに「日本人の作ったものはできが違う」ことを証明したのです。それ以来、ウズベキスタンでは、日本人を見習って働こう、という声が市民の中に広がりました。

麻生太郎副総理が、ウズベキスタンの初代大統領カリモフ氏の次のような言葉を紹介しています。

「子供のとき、毎週末、日本人捕虜収容所に連れて行かされ、母親が私に言ったセリフは毎週同じだった。『息子よ、ご覧、あの日本人の兵隊さんを。ロシアの兵隊が見ていなくても働く。人が見ていなくても働く。お前も大きくなったら、人が見ていなくてもしっかり働くような人間になれ』。おかげで母親の言いつけを守って、今日、私は大統領になれた」

非常に感動的なコメントです。

出口日出麿尊師は、

「何事にでも、それぞれの興味はあるものだ。だから、その仕事にとらわれ縛れることなく、広く大きい心で、その仕事を自己に従属せしめて、その中に自己一流の境地、興味を見出すようにつとめることがもっとも肝要である。この心掛けさえあれば、どんな仕事に従事していても、みたまのふゆは得られるものである」（『信仰覚書』第6巻）

と示しています。「みたまのふゆ」とは、心が増大する、精神的に向上していくということです。

良心と4つの魂の働き

人間は万物の霊長と言いますが、身体的能力だけを見ると、人間より優れた動物はたくさんいます。陸上選手がどんなに努力しても、チーターには叶いません。では、何が万物の霊長なのか。それは霊性の高さ、魂の働きが他の動物とは格段に違うからです。その魂の姿こそ、出口王仁三郎聖師が作文した『感謝祈願詞』に記された「一霊四魂」なのです。

一霊とは「直霊」と言い、良心のことです。さらにこの良心が働きを持つときに4つの働きをします。例えば、チャレンジ精神をもって前に進んでいこうとすれば「勇」という魂が働きます。多く

～21世紀・生きがい講座～

橋本伸作
大本東京宣教センター次長

の仲間と和合してより良い環境を作りたいという気持ちには「親」という魂が働きます。困っている人を助けたい、自然を大切にしたいという気持ちは「愛」という魂の働きです。また、物事を正しく判断する力、直感力、そうした働きが「智」であると記しています。

この「勇・親・愛・智」の4つの魂の働きを活発にすることによって、さらにまた「直霊」をますます高めていくことができるのです。

嫌な心に向き合う

ところが、私たちの心の中には、それとは真反対の心が存在しています。楽をしたい、怠けたい、怒りっぽい、褒められたい、人より優位に立ちたい、妬んだりひがんだり、怒らせたり傷つけたりなど、直霊とはかけ離れた心です。この心を「曲霊」と言います。曲霊は、自分の都合しか考えない「われ良し」の心です。

しかし、私たちがこうして体を保っているのも、実は曲霊の働きのおかげです。「食べたい」「寝たい」「休みたい」など、これをしないと私たちの肉体は保てません。つまり、この肉体というものを持っている以上、曲霊はどうしても私たちから離れてくれません。曲霊を往生させたい、退散させたい、そのために滝に打たれたり、断食をしたり、厳しい修行をして魂を清めようとします。それでも曲霊は決して消えてくれません。

結局、曲霊はあるものだということを自覚して、この曲霊の言いなりにならないように努めるしかありません。そのために必要なことが「省みる」ことであると示されています。「省みる」心の働きのおかげで、私たちは曲霊の自由にならないようになっています。

「省みる」とは、偉そうに見せたり、自分の慾のために争ったりすることを、「恥ずかしい」と思う心です。人をののしったり、見下したり、憎んだりすることを、「悔い改める」心です。目上の人を敬う、親を敬う、自然の恵みを敬うなど、あらゆる恩恵に対して「畏れ敬う」心です。自分だけが正しいと思ったり、世の中の誤った風潮に惑わされないよう真理を正しく「覚る」心です。

この「省、恥、悔、畏、覚」を「五情」といいます。『感謝祈願詞』には、「四魂と五情の全き活動」と記されていて、これらを大いに発揮し、反省心と勇気をもって曲霊に打ち勝っていく。そのことが魂を一歩一歩、向上させていくことにつながると教えています。

しかも、それを自力だけに頼るのではなく、他力、つまり神さまのお力をいただいて行う。それが『感謝祈願詞』を神さまに奏上する意義になるのです。

とこしえに朽ちぬ宝

『葉隠』という本をご存知でしょうか。今から300年ほど前、九州の佐賀藩士・山本常朝が武士としての心得を口述し、それを同じ藩士の田代陣基が筆録したもので、「武士道とは死ぬことと見つけたり」という有名な言葉があります。

この『葉隠』の中に、「お家のために役立つ人間になりたいなら、それなりのやり方がある」と書いています。それは、「武士たるもの、才能もいらぬ、一口でいえば、われ一人で背負う覚悟があればよし。同じ人間で、だれが勝り、だれが劣るものか。われ一人でもお家を動かしてみせるという気構えでいなければならない。しかし、それは熱しやすく冷めやすいものだが、さめないやり方がある。それは、神仏に誓願を立てるのだ。

一、武士道において遅れをとらないこと。
一、主君の御用にたつべきこと。
一、親に孝行すること。
一、大慈悲心を起こして人のためになるべきこと。

この四誓願を朝晩、神仏に向かって念ずれば、力は倍増し、後へは下がらぬものだ。尺取り虫のように、少しずつ、少しずつ、にじり進むものだ。まず、祈願をこらさなければならぬ」

このように記されています。まさに『感謝祈願詞』も同様に、「一霊四魂」の向上と「五情」のさらなるの働きを願い、天下公共のため、人として生まれた本分を尽くさせてくださいと、ひたらすら祈願を凝らすことで、尺取り虫のように少しずつ前へ〝にじり〟進んでいくのです。

とこしへに朽ちぬ宝は世のために
尽くす誠にまさるものなし

出口王仁三郎聖師の道歌です。

私たちは少しでも世のため人のためにお役にたっていると思えることは、この上ない喜びです。例えそれが他人に評価されなくても、とこしえに朽ちぬ宝になるのですから、満足すべきだと思います。「一霊四魂」と「五情」の働きを発揮して、ともどもに世のため人のために、尽くす人となりたいものです。

掲載文は、平成31年2月20日に航空会館（港区新橋）で開催した「21世紀・生きがい講座」講演録の要旨です。

※プラウト主義：持続可能で、公平な社会をめざす経済学の理論

東光苑月次祭

東光苑月次祭・人類愛善会創立記念祭典・市杵島姫命例祭は、令和元年6月9日午前10時30分から、斎主・加藤道明祭務課長のもと執行され、290人が参拝した。祭員は埼玉主会が、少年祭員は池田心音さん、伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読を嶋貫光喜福島主会長が、添釜は東京主会が担当した。

祭典では、「東光苑月次祭祝詞」に続いて「人類愛善会創立記念・世界平和祈願祝詞」が奏上され、人類愛善・万教同根のもと人類愛善会国際ネットワーク（IRUHA）の発展と「プラスチックゴミゼロ運動」の拡大をご祈願＝**写真左**。

祭典後、鈴木穎一大本本部長があいさつを行い、四代教主さまの教嗣変更に伴うご苦労を述べ、五代教主さまへの主一無適の信仰心と信徒の一致和合の大切さを述べた。ついで飯田俊明大本総代、猪子恒東京宣教センター長があいさつに立ち、昨年の大本東京本部開設50周年奉賛金の協力の御礼と会計報告を行った。

この後、能舞台で金剛流仕舞「西王母」（シテ・玉置巴さん）が奉納された＝**写真上**。

21世紀・生きがい講座

第195回21世紀・生きがい講座は5月15日、港区新橋の航空会館で開催され、㈱あえるば会長で経済アナリストの藤原直哉氏が「出口王仁三郎に学ぶ日本再生への道」と題して講話した。受講者65人。

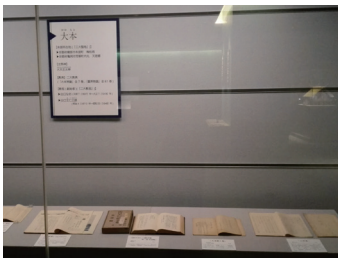
藤原講師は、「王仁三郎聖師は皇道経済について、金銀為本では行き詰まり、皇道為本、御稜威為本、土地為本の政策でなければならないと述べている。お金がいくらあっても、人間の知恵や力だけではうまくいかない。すべて神さまを中心に運用していかなくてはいけない。そのためには利己心や執着心を捨て心身を清らかにし、心を天につなげて、個々に与えられた使命を尽くしていくことが大切」と述べ、そのキーワードとして四大主義（清潔・楽天・進展・統一）の実践を紹介。「地上天国を実現させる。日本にはその先駆的使命がある」と話した。

参加者からは、「皇道経済、四大主義の説明がわかりやすく理解できた」「これからの日本や個人が進むべき道が理解できた」などの感想が聞かれた。

國學院大學博物館で「三条教則と教派神道」展

第20回神道講座（6月6・7日／教派連主催）に合わせ、5月28日～6月23日まで、國學院大學博物館（東京都渋谷区）で特別展「三条教則と教派神道」が開催され、大本からは三条教則を記載した大正3年の「大本教々規」や聖師さまが「皇国民の踏むべき道」と題して三条教則の意義について記された『神霊界』誌大正10年6月号など、資料4点が展示された。

「三条教則」は「三条教憲」とも呼ばれ、1872（明治5）年、国民教化政策の実施に際して教部省が教導職という国民を教化する役目の一部の人たちに布達した「敬神愛国・天理人道・皇上奉戴朝旨遵守」からなる3カ条。



大学関係者は「王仁三郎師が三条教憲について記した貴重な資料だ」と話していた。

第35回世界連邦日本大会in東京
核兵器廃絶を訴え

『新たな時代の世界連邦運動』をテーマに第35回世界連邦日本大会in東京が5月26日、東京都新宿区のJICA地球ひろばで開催され、150人が参加。大本から70人が参加した。

鈴木穎一人類愛善会長（大本本部長）先達による黙祷＝**写真**＝から始まり、フェルナンド・イグレシアス世界連邦運動世界本部共同会長と、2017年ノーベル平和賞受賞のICAN国際運営委員・川崎哲氏が講演。特に川崎氏は、核兵器が「力のシンボル」から「恥のシンボル」になる日が一日も早く到来するよう、参加者への協力を訴えた。

8月 東光苑祭典・行事予定

6日（火）夕拝後～
神集祭遥拝祭（初日・旧7月6日）

7日（水）午前10時30分～
開教127年瑞生大祭遥拝祭

11日（日）午前10時30分～
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

12日（月）夕拝後～
神集祭遥拝祭（最終日・旧7月12日）

21日（水）午後7時～8時30分
21世紀生きがい講座（航空会館・新橋）
講題 あの世を知って現代を生きる
～大本の霊界観～
講師 田辺謙二（大本教学委員会委員）